

あくていぶ

ありがとう
わかば

わたしたちの

理念が
できるまで

法人理念	philosophy
自分らしく生きる — Positive・Active・Creative —	

Positive

私たちは、ひとりひとりの思いを否定せず、その人の強みや良さに着目し、可能性を引き出し、それを活かすよう心がけます。だれもが自分らしく安心して生活できるよう、優しさと思いやりを持って寄り添うことを大切にし、やってみたいことに挑戦できる機会を保障します。

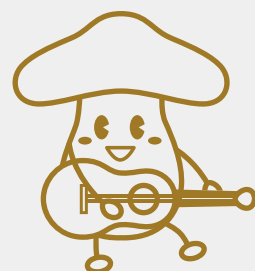
3つの行動指針

Active

私たちは、主体的・積極的にメンバーさんや家族、関係機関等に関わり、地域につながることで福祉力の向上に貢献します。その人にとって必要なことは決してあきらめず、希望の実現を応援します。

Creative

私たちは、だれもが住みやすい地域、社会、未来を創るために、やりたいこと、やるべきことを見つけ、新しいことにも挑戦します。それぞれの視点を大切に創意工夫し、チームとして課題に取り組み、地域とともに歩みながら成長していける法人を目指します。



SHUNKEIKAI since 2003

わたしたちの理念ができるまで

これまでの理念「Positive（前向きな）Active（積極的な）Creative（創造的な）」は、筍憩会の前身、憩いの家共同作業所から筍憩会を牽引してきた故蕨野隆久氏が考案し、掲げられ、蕨野氏の目指すところを法人の目指すところとして職員は歩んできました。ですから、蕨野氏を亡くしてからは、なんとか法人を守っていくために職員それぞれが日々の業務をこなしていくのが精一杯で、法人としての目指すところを見失ってしまいました。

しかし、それでは職員がどこを目指して何をどう頑張ったらよいかかわらず、迷ってしまいます。このままではいけないと、運営管理者間で話し合いを行い、理念を明文化し、法人が目指すところを明確にして、法人内外へ発信していこうとプロジェクトが立ち上がりました。まずは、筍憩会が何のために存在し、どこに向かって活動しているのか、筍憩会の強みは何か、その強みを使って、日々どういったことを大事にして支援にあたっているのかについて意見を出し合いました。それぞれが出した意見はそうかけ離れたものではありませんでした。

それをまとめると、

「みんなで **Positive・Active・Creative** に自分らしく生きる」

（人とともに、他者とともに、地域とともに）

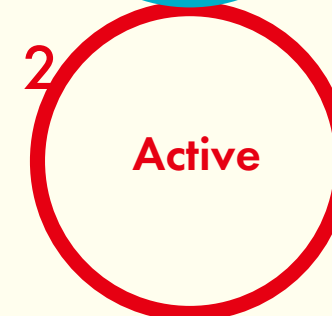
この「ともに」という言葉は「つながる」「寄り添う」を指しています。また、Positive という言葉にはストレングスの視点や、自分らしく生きるという意味も含まれていると考えました。

次に、Positive・Active・Creative 一つ一つの理念を行動指針として文章化しました。



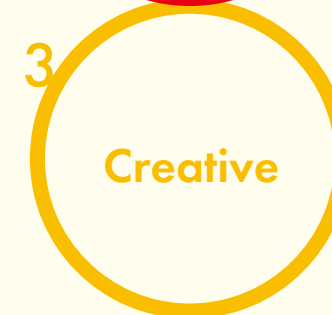
Positive ポジティブ

「ここに相談したら何とかなる」と思ってもらえる法人を目指そう！という思いが詰まっています。



Active アクティブ

良いと思ったことに動いていくこと、積極的につながりを作っていくという思いがあります。



Creative クリエイティブ

自分らしく生きられる街をみんなで創ろう！という気持ちが込められています。

そんな思いで作られた理念、行動指針をしっかり共有し、みんなで同じ方向に向かってこれからも歩んでいきたいと思えます。

THANKS FOR WAKABA



ありがとうわかば



NPO法人わかば 若葉作業所
～ 社会福祉法人 苧憩会 若葉作業所



社会福祉法人 苧憩会 わかば

令和6年3月末に閉所した「わかば」について、小規模作業所時代の「若葉作業所」から、NPOを取得、その後「苧憩会」と合併、閉所に至るまで、所縁のあるお三方に振り返って語っていただきました。

はじめに、若葉作業所へ入職当時の話から

寺田 平成6年に、夫の元同僚で、和歌山県の保健所相談員になった人がいて、「無認可の作業所があるんやけども、午前中だけなんとか見てもらえないか」と声をかけてもらった。当時は、無認可の作業所がちょこちょこ出来てきて、精神障害者の家族会っていうのも出来て、それでその家族会の親が3人集まって「作業所やろう」ってなったらしい。事務員とか指導員みたいな形で誰かが入ってくれないかなという話で、私がそこに入るようになった。その頃は、下の子が生まれてまだ2年も経っていなかったんだけど、仕事もしたいなと思っていたので、犬鳴峠の細い道を通って、山を超えて1時間かけて行き始めたんです。六畳二間と台所と土間のある川沿いの平屋。なんか小屋みたいなところでやっていた（笑）。でも結構、利用者さんが来てくれていて、その頃の仕事は、ウエスを切る仕事だった。大きな生地を裁ちばさみで適当な大きさに切っているという仕事。朝9時頃に来て12時に終わるという、そんな一日でした。半日だけの開所でしたが、保健所の保健師さんや粉河町役場の保健師さんとかもしょっちゅう来てくれて、みんなの様子を見てくれたり、私の心配もいろいろしてくれたり、本当にお世話になったなと思う。せっかく精神障害者に対応した作業所が出来たということで、翌年からはもう1人スタッフが増え、2人体制になった。

その頃から「若葉作業所」という名前でした？

寺田 私が来た時には、もう「若葉作業所」でした。こころの医療センターの先生と、看護師さんが、いつもいろいろと相談に乗ってくれたりしていた。「若葉作業所」と名前をつけたのは先生だと思うんだけど。月に1回ぐらい、家族や先生と看護師さんが集まって話し合いをしていた、家族会みたいな感じでね。保健師さんや相談員さんもいました。



小川

元わかば所長
苧憩会合併後、
わかば閉所に至るまでの所長
現 障がい者地域生活相談
センター長



川端

元わかば職員
NPO法人わかば、苧憩会のわかば
を通して在籍の職員
現 あるべじお職員



寺田

元 NPO 法人若葉作業所所長
小規模作業所時代から
NPO 法人、苧憩会合併までを知る
元若葉作業所所長
現 伊都障がい者就業・生活
支援センタージョブサポーター

その中で、やっぱり午前中だけではなく、せめて3時ぐらいまでしたらどうかっていう話を、私の方から出したんです。家族には「そんな1日も居るなんて無理、誰も来ないようになるよ」って言われたんですけど、やり始めたら結構みんないてくれて。その頃はまだ送迎はしてなかったの、電車で来てくれたり、バスで来てくれたり。あんまり交通網が発達してないところだったけど、なんとか来てくれていました。

当時、何人ぐらい来てくれていました？

寺田 結構多かったですよ。12、3人は。台所とか押入れまでびっしりみたいな（笑）。あの頃はいろんな人がいて、大きな声で歌を歌ったりとか大声で笑いながら喋ったりとかで、それをうるさいという人もいるんだけど、なんかすごく賑やかでしたね。

工賃はどれくらいでした？

寺田 毎日来ている人で月5,000円ぐらい。作業がウエスだけだったからね。でも、だんだんウエスの原材料も手に入りにくくなって、やる事がなくなってきた。それで、その小屋からその隣の二階建ての大きい家が変わった頃から、内職の仕事もやりだしていた。蕨野さんが憩いの家共同作業所（あるべじおの前身）に来てからは、交流が出来て、割と私も蕨野さん頼りみたいになった。わされん（和歌山県共同作業所連絡会）の運動会やソフトボールとか、そういうのを一緒に行ったりとか、レクリエーションを一緒にしたり、釣り堀に行ったりとかそういうつながりでね、憩いの家の利用者さんも、若葉に来てくれた。無認可の作業所ばかりだったから、みんな力合わせてっていうことで、わされんの活動も、すごくにぎやかに活発にやっていた。親からはもうちょっと工賃あったらいいんやけどって言われていたけれど、出せなかった。

利用者さんはどこから紹介されて来たのですか？

寺田 保健所からが多かったですね。保健所で月に1回、精神障害者家族会をやっていたから。病院からも、ケースワーカーの人が「こういうところがありますよ」って、紹介してくれた。あとは、通院している病院が同じだった利用者さん同士のつながりですね。



利用契約とかはどのようなかたちでしたか？

小川 当時は、契約書みたいなものはなかった。来るって本人が言ったら、名前と住所と生年月日、病名と主治医を聞いておくれ。もうそれだけよね。たしか、若葉もそうでしたね。

川端さんはいつごろから？

川端 こどもが2歳ぐらいのときなので、15年ぐらい前。自分は全然仕事するつもりはなかったの、最初は軽い気持ちで週2日ぐらいから。こんなに居るとは思わなかった（笑）。いろいろ助けてもらいながらなんとかやってきた。

寺田 新しいところに移った時ぐらいだったから、私と一緒にだったのは5年間ぐらいで、小川さんとは（筍憩会になって）10年ですね。

筍憩会との合併について

寺田 NPO法人にはなっていたが、B型（就労継続支援B型事業）だけではやっていけないのではないかと不安な気持ちになった。グループホームは絶対必要だと考え、このままこの法人を率いてやっていくのは、ちょっとしんどいなあって思うようになった。当時、よく話をしていた蕨野さんに相談していたんです。今から思えば周りの人と交流をしていたおかげで、いろんな情報を教えてもらったり、助けてもらったり、助け合ったりして、そういう点では昔は良かったなって感じます。

合併後「わかば」というできあがったものを 受け継ぐプレッシャーはありましたか？

小川 プレッシャーはあまりなかったかもしれない。でも、できあがった所に入っていく大変さというのは入ってみて分かった。はじめはやっぱり利用者さんはそんなに寄ってこなかった。利用者さんに、これからの若葉は、こんな風にしていって説明はするけど、利用者さんからすれば、よそ者みたいな感じで。「寺田さんを返してよ」みたいな。やっぱりそれはあった。後は、「寺田さんはこんな風してくれた。寺田さんはぜんざいを作ってくれた。」とか言われた。年末になると年越し蕎麦とかね（笑）。

寺田 無認可の名残でね、色々作ってみんなで食事会したりとかしていたから。

小川 橋本・伊都圏域から那賀圏域に変わるだけで仕事のやり方が違う。そこに慣れるのが大変だった。橋本・伊都圏域でそれなりに人のつながりを作ってきたつもりだったが、那賀圏域に行くと、まるっきり初めて。例えば、岩出市役所や紀の川市役所の人達に「筍憩会」と名乗った所で「どこやねん」という様な反応だった。橋本・伊都圏域の市町で「筍憩会」と名乗った時はネームバリューがあって、「蕨野さんところの筍憩会さんですね」と反応が返ってくる。向こうに行くと「あるべじお」は通用しない。「筍憩会」って名乗るともっと分からない、伝わらない状況。この辺りのしんどさはあったと思う。10年間それはずっと感じていた。だから、まずは自分の横のつながりを作らないといけないのがしんどかったと思う。

今、橋本・伊都に戻ってきて10年間でつくった那賀圏域での横のつながりを感じる。

相談支援をやっている、橋本・伊都でヘルパーさんが見つからなかったら、那賀圏域で探せばいいって思える。この間、実際に紀の川市に繋いだりもした。

個人的なことになるが、那賀圏域での10年間で生まれた横のつながりは財産になっている。

「わかば」の閉所について

小川 残念なのは残念だと思っている。ちょっと心の奥底では、もうちょっといけたかな、今回の報酬改定でもしかしたらいけたかなということころはちょっと感じている。最終決断としては、あの時決断してよかった、という風にも思っているんですが、でもやっぱり利用者さんにももの凄く迷惑を掛けたのですね。この業界の仕事をしていて一番やったらあかんことを法人の都合でやってしまっていたと感じています。

おわりに

川端 ずっと縁があって、「NPOわかば」の時から長く勤めているのが不思議で仕方ない。小川所長のおかげです（笑）。所長さんらしくない所長さんで、よかった（笑）。

寺田 私は、この年になると、初めの頃にいた利用者さんはみんなどうしてるかなって、ふと思う時がある。みんな元気かなって思いますね。ずっとその人たちと一緒にいられるわけじゃないけども。大変な状況で生活している人が多かったからね。

小川 毎日楽しくやらせてもらっていましたよ。仕事に行くのが嫌というふうには思ったことがない。今日はどんなことがあるのか、今日あの人なんて言ってくるかなと、楽しいところだったなと思います。

最終的には蕨野さんがわかばに行きたいって言ってたなあ…。



THANKS FOR WAKABA

ありがとうわかば



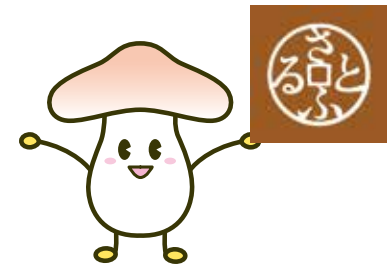
しいたけでふるさとを応援

ふるさと納税
返礼品



～自主製品のご紹介～

昨年パッケージをリニューアルした
あるべじおのしいたけは、
橋本市の「ふるさと納税」返礼品として
「さとふる」のサイトを通じて
出品しています。
寄附者様からはたくさんのコメントを
いただき、作業への励みになっています。



利用者の方々と共に、肉厚ぷりぷりで食べ応えのあるしいたけを
お届けできるよう、愛情込めて365日育てています。
QRコードを読み込んで、ぜひご覧ください！

(独)高齡・障害・求職者雇用 支援機構 理事長努力賞受賞！

令和 6 年 9 月 30 日、ホテルグランヴィア和歌山で行われた
令和 6 年度障害者雇用優良事業所等表彰式に於いて、
あるべじおの和田有紀さんが、独立行政法人高齡・障害・求職者雇用
支援機構理事長努力賞を受賞しました。
和田さんは長年にわたり、あるべじおの施設内をきれいに維持できるよう
清掃業務にあたっています。



受賞！

和田さんの感想：

表彰式は人が多くて緊張しました。
働き始めて15年以上も経っていた
ことに驚きました。
仕事を通して体力がつかしました。



Q. 普段仕事で心掛けていること A. 地道にこつこつとすることです。

Q. 仕事で大変なこと A. 高いところを掃除するのが大変です。

Q. うれしかった出来事 A. 利用者さんから
「綺麗にしてくれてありがとう」
と言われたことです。

決算報告

第一号第一様式

法人単位資金収支計算書

(自) 令和 5 年 4 月 1 日 (至) 令和 6 年 3 月 31 日

(単位：円)

勘 定 科 目		予算 (A)	決算 (B)	差異 (A)-(B)	備 考
事業活動による収支	収入				
	就労支援事業収入	19,640,000	22,722,816	△ 3,082,816	
	障害福祉サービス等事業収入	186,096,460	182,448,921	3,647,539	
	受取利息配当金収入	0	4,623	△ 4,623	
	その他の収入	2,590,000	3,310,524	△ 720,524	
	事業活動収入計 (1)	208,326,460	208,486,884	△ 160,424	
事業活動による支出	支出				
	人件費支出	140,667,767	137,890,892	2,776,875	
	事業費支出	23,251,752	21,667,490	1,584,262	
	事務費支出	31,038,741	27,331,533	3,707,208	
	就労支援事業支出	17,640,000	22,718,632	△ 5,078,632	
	事業活動支出計 (2)	212,598,260	209,608,547	2,989,713	
事業活動資金収支差額 (3)=(1)-(2)		△ 4,271,800	△ 1,121,663	△ 3,150,137	
施設整備等による収支	収入				
	施設整備等収入計 (4)	0	0	0	
	支出				
	固定資産取得支出	1,304,000	1,034,803	269,197	
施設整備等による支出	施設整備等支出計 (5)	1,304,000	1,034,803	269,197	
	施設整備等資金収支差額 (6)=(4)-(5)	△ 1,304,000	△ 1,034,803	△ 269,197	
その他の活動による収支	収入				
	積立資産取崩収入	416,700	1,792,200	△ 1,375,500	
	その他の活動による収入	25,000	75,000	△ 50,000	
	その他の活動収入計 (7)	441,700	1,867,200	△ 1,425,500	
	支出				
	積立資産支出	1,815,900	1,839,300	△ 23,400	
その他の活動による支出	その他の活動による支出	50,000	50,000	0	
	その他の活動支出計 (8)	1,865,900	1,889,300	△ 23,400	
その他の活動資金収支差額 (9)=(7)-(8)		△ 1,424,200	△ 22,100	△ 1,402,100	
予備費支出 (10)		0	—	0	
当期資金収支差額合計 (11)=(3)+(6)+(9)-(10)		△ 7,000,000	△ 2,178,566	△ 4,821,434	

前期末支払資金残高 (12)	0	90,374,551	△ 90,374,551	
当期末支払資金残高 (11)+(12)	△ 7,000,000	88,195,985	△ 95,195,985	

決算報告つづき

第二号第一様式

法人単位事業活動計算書

(自) 令和 5年 4月 1日 (至) 令和 6年 3月 31日

(単位:円)

勘 定 科 目			当年度決算 (A)	前年度決算 (B)	増減 (A)－(B)
サ ー ビ ス 活 動 増 減 の 部	収 益	就労支援事業収益	22,722,816	22,561,997	160,819
		障害福祉サービス等事業収益	182,448,921	204,696,655	△ 22,247,734
		サービス活動収益計 (1)	205,171,737	227,258,652	△ 22,086,915
	費 用	人件費	138,342,992	146,491,483	△ 8,148,491
		事業費	21,667,490	21,828,898	△ 161,408
		事務費	27,331,533	26,377,193	954,340
		就労支援事業費用	22,722,816	22,564,867	157,949
		減価償却費	6,166,069	6,643,991	△ 477,922
		国庫補助金等特別積立金取崩額	△ 1,788,180	△ 1,788,186	6
徴収不能引当金繰入		66,682	67,832	△ 1,150	
サービス活動費用計 (2)		214,509,402	222,186,078	△ 7,676,676	
サービス活動増減差額 (3)=(1)－(2)		△ 9,337,665	5,072,574	△ 14,410,239	
サ ー ビ ス 活 動 外 増 減 の 部	収 益	受取利息配当金収益	4,623	8,570	△ 3,947
		その他のサービス活動外収益	3,310,524	2,747,035	563,489
		サービス活動外収益計 (4)	3,315,147	2,755,605	559,542
	費 用				
		サービス活動外費用計 (5)	0	0	0
サービス活動外増減差額 (6)=(4)－(5)		3,315,147	2,755,605	559,542	
経常増減差額 (7)=(3)＋(6)		△ 6,022,518	7,828,179	△ 13,850,697	
特 別 増 減 の 部	収 益	その他の特別収益	128,327	12,802	115,525
		特別収益計 (8)	128,327	12,802	115,525
	費 用	固定資産売却損・処分損	0	3	△ 3
		特別費用計 (9)	0	3	△ 3
		特別増減差額 (10)=(8)－(9)	128,327	12,799	115,528
当期活動増減差額 (11)=(7)＋(10)		△ 5,894,191	7,840,978	△ 13,735,169	
繰 越 活 動 増 減 差 額 の 部	前期繰越活動増減差額 (12)		105,996,969	98,155,991	7,840,978
	当期末繰越活動増減差額 (13)=(11)＋(12)		100,102,778	105,996,969	△ 5,894,191
	基本金取崩額 (14)		0	0	0
	その他の積立金取崩額 (15)		0	0	0
	その他の積立金積立額 (16)		0	0	0
	次期繰越活動増減差額 (17)=(13)＋(14)＋(15)－(16)		100,102,778	105,996,969	△ 5,894,191

第三号第一様式

法人単位貸借対照表

令和 6年 3月 31日現在

(単位:円)

資 産 の 部			
	当年度末	前年度末	増 減
流動資産	98,916,090	100,004,158	△ 1,088,068
現金預金	66,696,088	65,712,297	983,791
事業未収金	33,039,768	35,175,592	△ 2,135,824
貯蔵品	0	21,000	△ 21,000
商品・製品	14,514	15,376	△ 862
原材料	154,213	130,031	24,182
徴収不能引当金	△ 988,493	△ 1,050,138	61,645
固定資産	132,334,847	137,483,045	△ 5,148,198
基本財産	37,113,859	38,108,975	△ 995,116
土地	15,427,448	15,427,448	0
建物	21,686,411	22,681,527	△ 995,116
その他の固定資産	95,220,988	99,374,070	△ 4,153,082
建物	10,982,565	11,950,127	△ 967,562
構築物	564,764	706,151	△ 141,387
機械及び装置	1	1	0
車輛運搬具	3,226,019	5,788,597	△ 2,562,578
器具及び備品	495,005	792,005	△ 297,000
権利	17,430	17,430	0
ソフトウェア	424,704	656,359	△ 231,655
退職給付引当資産	17,044,500	16,997,400	47,100
設備等整備積立資産	59,000,000	59,000,000	0
差入保証金	3,466,000	3,466,000	0
資産の部合計	231,250,937	237,487,203	△ 6,236,266

負 債 の 部			
	当年度末	前年度末	増 減
流動負債	17,720,871	17,241,338	479,533
事業未払金	8,820,945	5,933,871	2,887,074
未払費用	2,124,963	4,011,265	△ 1,886,302
職員預り金	593,963	589,202	4,761
賞与引当金	6,181,000	6,707,000	△ 526,000
固定負債	19,785,250	18,782,150	1,003,100
退職給付引当金	19,158,250	18,180,150	978,100
その他の固定負債	627,000	602,000	25,000
負債の部合計	37,506,121	36,023,488	1,482,633
純 資 産 の 部			
基本金	16,152,448	16,152,448	0
第1号基本金	16,152,448	16,152,448	0
国庫補助金等特別積立金	18,489,590	20,314,298	△ 1,824,708
その他の積立金	59,000,000	59,000,000	0
設備等整備積立金	59,000,000	59,000,000	0
次期繰越活動増減差額	100,102,778	105,996,969	△ 5,894,191
(うち当期活動増減差額)	△ 5,894,191	7,840,978	△ 13,735,169
純資産の部合計	193,744,816	201,463,715	△ 7,718,899
負債及び純資産の部合計	231,250,937	237,487,203	△ 6,236,266

社会福祉法人 筍憩会 後援会 入会のご案内

社会福祉法人筍憩会では、私たちの活動にご協力くださる
後援会の会員の方を募集しております。

会費につきましては、筍憩会で行われている各事業の運営費補助、
広報誌「あくていぶ」の送付等に活用させていただきます。

なお、ご入会いただいた方には、生しいたけ（1袋200g入り）をお届けいたします。

お届けするしいたけは、あるべじおにて日々愛情を込めて育てているものです。

是非、ご入会いただけますよう、よろしくお願い申し上げます。

年会費

1000円会員 …… 広報誌「あくていぶ」をご送付

3000円会員 …… 広報誌「あくていぶ」& 年1回「生しいたけ」をご送付

5000円会員 …… 広報誌「あくていぶ」& 年2回「生しいたけ」をご送付

詳しいお問合わせは、法人事務局（担当：稲葉）までご連絡ください。

TEL. 0736-33-3317 FAX. 0736-33-3318

編集後記

今年度から広報部の担当に。思ってた以上にやる事が多く、忙しいぞー…(*´Д`) (大垣)

9月の部会、忘れており出席できず。戦力になっていない事だけは自覚しております。(永橋)

今年は断捨離をすることと、20年ぶりに日本で開催される大阪・関西万博が密かな楽しみです。(福本)

あくていぶリニューアル3年目。これまでは筍憩会を知ってもらう内容が多かったので、今後は筍憩会から何か発信していけるような内容を企画していきたいと思います。個人的には、今年はチャレンジの年です！（稲葉）



社会福祉法人 筍憩会

